

# 安心を支えるために



まつやま だいこう  
松山 大耕  
妙心寺退蔵院 副住職

1978年、京都市妙心寺退蔵院の長男として生まれ、11歳で得度。2003年、東京大学大学院農学生命科学研究科を修了。埼玉県新座市・平林寺にて3年半の修行生活を送った後、07年より現職。11年、日本の禅宗を代表してパチカンでローマ教皇に謁見。14年、ダライ・ラマ14世と会談を行い、同年に世界経済フォーラム年次総会（ダボス会議）に出席。16年、『日経ビジネス』誌の「時代を創る100人」に選出される。世界各国の宗教家・リーダーと交流を行い、宗教の垣根を越えて活躍している。

「日本最大の禅寺」とも称される妙心寺は、京都市右京区にある臨済宗妙心寺派の大本山です。その広い妙心寺のなかに46ある塔頭（弟子たちの小庵から発展した独立寺院）の一つ、退蔵院も、室町時代にさかのぼる長い歴史を持つお寺です。世界中から毎日たくさんのお客さまが庭園を鑑賞したり、禅の体験をするために訪れたり、地域には古くからの檀家さんも多くいらっしやいます。

私は20代で埼玉県新座市・平林寺で修行に入りました。非常に厳しい生活で、「1週間は横になることが許されない修行」さえありました。「こんなことに意味はあるのだろうか?」「本当にこれでよいのだろうか?」など悩みは消えませんでした。が、毎朝3時起ききの生活を3年半続けました。修行が終わると、京都まで約600kmを28日掛け徒歩で戻ってきました。お布施をいただきながら、食べ物も恵んでもらい、時に嵐の中を歩きました。どれも今となってはありがたい経験です。

### お坊さんは安心を広げる仕事

若い頃は身近なものの嫌なところ、ネガティブなところが、どうしても見えます。「お坊さんは立派そうにしているが、言っていることややっていることが違うじゃないか」など、私もあら探しばかりしていました。実は20代初めまで、「絶対にお寺を継がない」と心に決めていたのです。

けれども、この道を選ぶ決心をしたのは、大学院で農学の研究という道を歩み始めていた頃、ある人との偶然の出会いがきっかけでした。研究のため滞在していた長野県飯山市にあった正受庵というお寺で、原井寛道和尚という方の存在に触れたのです。

て当たり前、そう受け入れることが「あんじん」なのです。

### お寺で朝を迎える学生たち

2025年から退蔵院では、学生寮「柳田寮」の運営も始めました。私も大学に入った頃、東京のお寺に住み込みさせていただきながら勉強をした経験があります。先日もブータンで、仏教関係の方から、留学で日本のお寺に住み込んだ経験が忘れられないという話を伺いました。学生への支援は世の中に対する恩返しであり、素晴らしい種まきでもあると感じたことが発想の源です。

篤志家の檀家さんから遺産をご寄進いただき、料理旅館の社員寮だった建物をリノベーションして、4部屋造りました。2年間、毎朝6時半から雑巾がけや庭掃除などお寺の手伝いをしてもらいますが、それ以外は特に条件もなく部屋代は無料です。「作務」が終わると、朝食は家族やほかの預かり弟子らと一緒にいただきます。時には就職や恋愛の相談にも乗ります。若い学生たちにとっては、いろいろなことを考えて経験する機会になっていると感じます。

私自身は中学時代の終わり頃、英語と数学のテストで0点を取ったことをきっかけに、本気で勉強を始めました。ただ正直なところ、高校や大学は「名前だけ」で選んでいました。「将来、何になりたいのか?」と問われても、分からなかったからです。

転機の一つは大学生のとき目にしたある記事です。その記事に感化され、農学部で教えていらした生源寺眞一先生のもとで学びたいと考え、学部を文系から理系に変えました。以来、私の人生は少し変



お勤めは、毎朝6時30分の読経から始まり、寮生たちは分担して寺院内や庭園の掃除などを行う。8時ごろにみんなで朝食をとり、その後は学校に行くなど各自が好きなように過ごす。



15世紀初めに建立された退蔵院は、枯れ山水庭園（写真）と池泉回遊式庭園「余香苑」を目当てに観光客が絶えない。如拙筆の『瓢鮎図』（国宝）を所蔵することでも有名。

非常に雪深い場所にある正受庵は檀家もなく、観光客も訪れず、ほぼ毎日の托鉢や畑仕事だけで寺を維持していました。ここに暮らしていた詩人の方はその様子を、「和尚さんが托鉢をしている声を聴くと町中に安心が広がる」という詩に書いておられました。そのとき私は初めてお坊さんの役割は「安心を与えること」だったのかと気づかされました。

### 安心は不安を減らすことではない

2007年から退蔵院の副住職を務め、外国人に禅を体験してもらうツアーを企画するなど、新しい時代に合う試みにも取り組んでいます。世界中から訪れる人たちに仏教のお話をしたり、講演会や国際会議に呼ばれたりすることも少なくありません。観

わったと感じます。「何をやりたいか?」ではなく「この人の下で学びたい」と、人を基準に進路を選ぶことにしたからです。

### やりたいことより一緒にいたい人を選ぶ

今の子どもたちは、「やりたいことを探さない」と言われます。でも多くの選択肢から「好きなこと」を見つけてるのは案外難しい。ましてこれからのAI時代、他人ばかりか機械も競争相手となり、やりたい仕事が続くかも確かではありません。だからこそ「好きな人とともに時間を過ごす」を基準に仕事を選ぶのも悪くない、と若い人たちに伝えていきます。就職でいえば、「経営者の人柄で選ぶ」といったやり方です。

尊敬できる師匠やメンターと過ごす時間は、それ自体が宝です。そして、そういう時間の中では、不思議と「自分がやりたいこと」も見えてくるもの。今の若い人たちは、親と先生以外の大人と接する機会が少なすぎる。日常生活では想像できないような出会いや場所を与えるのも大人の役割でしょう。子どもは大人に生き方を決めてもらったり、知識を与えてほしいのではありません。彼らが見ているのは、人柄や人間らしさを示す行動であり、大人たちの失敗談も喜んで聞いてくれます。先ほど私は、かつて0点を取った話をしました。それは「だからダメなんだ」という話にもなれば、「そこで目が覚め、英語ができるようになった」という話にもなります。一つには決められない、「ものの見方」を伝えてくれる。子どもたちは、そんな大人たちの人間らしい姿を見ながら、じっくり生きる道を探していくのが理想ではないでしょうか。